

～コロナ禍を「会社が変わる」ターニングポイントにしよう!～

“総務部門は雑用を担当する部署”という常識が変わる「戦略総務」とは？

リタネッツでは『月刊総務』の全面協力のもと、コロナ禍に遭っても、組合員(中小企業・小規模事業者)の皆様が生産性を向上し、稼ぐチカラを伸ばすために、貴社の「あるべき総務像」を考えるヒントになればと思い、WAVE記事を編集しました。

『月刊総務』は創刊57年目を迎える、全国の中小企業10万社の経営者・総務担当者が購読する日本で唯一の管理部門向け専門誌です。今回、リタネッツが『月刊総務』と連携する目的は、組合員の皆様考える総務像を一新し、afterコロナで一変した経営環境の中でも経営を伸ばして頂くためのヒントをお届けすることです。

◆経費精算のため…、ハンコを押すため…、の出勤ってホントに必要?◆

緊急事態宣言の中、依然として通勤電車に乗っているサラリーマンが未だ大勢います。ある従業員は『経費精算で領収書を提出するために出勤しないと…』、ある管理職は『ハンコ(決済印)を押すために出勤しないと…』とそれって本当に必要?と思うような理由です。

コロナ禍でテレワーク(在宅勤務)に移行する企業の中には、必要な業務と不要な業務を徐々に選別しています。多くの企業が紙のデータ化に移行していますが、果たしてデータ化の目的は明確になっているのでしょうか? 一時的なデータ化では、コロナ終息後、再度、「紙の時代」に戻ってしまうでしょう。



データ化の目的、「そもそも、その仕事って必要なのか?」という点を含めて、会社全体をデザインする視点が必要となります。

◆総務部門がプロフィットセンター(利益を生む部門)になるの?◆

総務部門と言うと、“雑用を担当する部門”というイメージが強いのではないのでしょうか? しかし、リタネッツでは「総務部門で利益を上げる!」と真剣に考えています。決して、会社の私益は社長や営業マンだけがもたらすのではなく、総務部門(バックオフィス)の皆様も付加価値を創ることができるんだと…。

例えば、総務の役割のひとつ、広報・採用担当者の場合を考えます。自社の働きやすさ(従業員を大切に社風)を発信し、求める人材と接触し、採用・定着が進むことが付加価値となります。一般的には「1人当たりの採用コストは、求める人材の月給の2倍はかかる」と言われており、このコストを削減することは会社にとって大きな貢献利益です。

◆今までにない総務像「戦略総務」とは?◆

アメリカで業績を急激に伸ばす企業の中には、No.2(エース級の人材)を総務部門に配置し、社外—社内のバランスを取りつつ、経営を行う事例も散見されています。まさに社長の右腕ですね。

さて、ここで『月刊総務』豊田編集長による「総務のあるべき姿」コメントを紹介します。

《スタッフ部門、特に、外部との接点の多い総務部としては、その外部ネットワークを駆使して、広い視野を持った情報収集が欠かせない。何が起こるかわからないVolatility(変動性・不安定さ)、Uncertainty(不確実性・不確定さ)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性・不明確さ)のVUCA時代、つまり、予測不能な今の時代、総務もインテリジェンス能力が問われてくる時代である。ここで言うインテリジェンスとは、経営トップに経営の舵取りに必要な情報を収集し、判断できる材料を提供する活動のことだ。》

いかがですか？ これまでの総務像とは異なる視点ではありませんか？ 逆の見方をすると、「戦略総務」という視点で仕事を捉え直すことで、まだまだ自社の伸びしろがあることに気付かれると思います。

《イノベーション、人材不足、生産性向上。一見すると、総務とは関係ない課題のようにも見えるが、先に記したよう総務でできることは大いにある。つまり、経営課題と総務の仕事は直結していることが多い。逆に、総務が対応しないと解決できないことが極めて多い。経営者が総務にそこまでの役割を求め、解決を担当させることで、企業の働き方改革、生産性向上の推移は格段にアップする。従来型の雑用に終始するような総務では、なかなかそこまでたどり着けない。》

総務担当者が自身の仕事を雑用と考えずに目線を上げる(『自分は「戦略総務」を担っている』と役割に気づく)ことに加えて、社長自らが総務の役割を“雑用を担当する部署”から「戦略総務」に捉え直し、自社の経営を伸ばすために総務部門が「社長の右腕」になり得るということを再認識して頂ければ、今月のWAVEを編集した甲斐があります。

最後に豊田編集長は、総務部門の可能性について、以下のようにコメントしています。

《総務は人件費に次ぐ大きな予算を抱えている。また、自社の社員であれば必ず使わなければならない働く場、オフィスを司る部門でもある。それは言い換えれば、「プラットフォーム」であるとも言える。プラットフォームが変われば、従業員の働き方は変わるのである。》

(※《 》はDIAMOND online『経営・戦略 なぜ、「戦略総務」か?』2018.1.26より引用)

さて、貴社の総務部門では、「戦略総務」の視点を持っていますか？ コロナ禍、目の前の業務に追われているかもしれませんが、「戦略総務」の視点を取り入れてみませんか？ 今後、緊急事態宣言が解除された後afterコロナ・Withコロナに変わった時、一気に会社を伸ばして頂きたい、これがリタネッツの思いです。

そこで、リタネッツでは、6月24日(水) ZOOMによるオンラインセミナー(参加費:無料)を開催します。セミナーにご関心がおありの方は、別紙「セミナーのご案内」をご確認下さい。お申込みを頂いた方にセミナー開催前日、ZOOMのURL、アカウントをご案内致します。皆様のご参加を心より、お待ちしております。



御社名		御名前	
メールアドレス		携帯電話	

オンラインセミナーのお申込みは、上記4情報を記載のうえ、別紙のPeatix(Web経由)、又はFAXにてお申込み下さい。

☎ F A X : 048-658-8883

埼玉初開催

コロナ禍の今こそ必要な戦略総務の発想 ～経営の現場に求められる変化の力～

総務が変われば、会社が変わる
日本一総務を知る編集長による総務の未来徹底解説！

参加費
無料

企業の総務部門はコストセンターという認識をまだお持ちではないでしょうか。もしそうなら、今が、そのご認識を変えるチャンスです。経営目線で全社最道をなせる部門は、総務しかありません。つまり総務はプロフィットセンター（利益を生む出す部門）なのです。その可能性を知り、いかにして総務を戦略的な部門へと変えて行けるのか。総務業界唯一の専門誌「月刊総務」での膨大な数の総務現場への取材を通じ、「総務を日本一知る」月刊総務・編集長の豊田氏に、今のコロナ禍での総務の在り方、本来の戦略総務の役割について徹底解説いただきます。埼玉初開催！ぜひこの機会をご活用ください。

こんな方にお勧め

- ☑ これからの時代の総務業務の未来を知りたい現場担当者様
- ☑ 総務を経営目線を持つ戦略部門に育てたい経営者様
- ☑ コロナ禍の会社経営全般に関心をお持ちの方 など



月刊総務 代表取締役社長・編集長

豊田 健一

早稲田大学政治経済学部卒業。株式会社リクルート、株式会社魚力で総務課長などを経験後、ウイスイワークス株式会社入社。現在、株式会社月刊総務 代表取締役社長。日本で唯一の管理部門向け専門誌「月刊総務」の編集長として、年間80回以上の講演実績を誇る。

一般社団法人フアシリテイ・オプティマスサービス・コンソーシアムの理事や、All Aboutの「総務・人事」社内コミュニケーション・ガイド」も務める。

日時：2020年6月24日（水）

13:00-14:30

会場：オンライン（Zoom）

定員：50名

申込み：Peatix 経由でお申込みください

<https://gekkan-soumu.peatix.com>

タイムテーブル

12:45	受付開始（オンライン）
13:00	開会・セミナー
14:00	質疑応答
14:30	閉会

主催：一般財団法人 **nmwe** 医療・福祉・環境経営支援機構「埼玉」

共催： **W** リタネッツ事業協同組合 **ASASURE** アクシユア株式会社